

くにしせきはくさんへいせんじきゅうけいだい

## 9. 国史跡白山平泉寺旧境内 —僧坊区画3の石垣の調査—

所在地：勝山市平泉寺町平泉寺 59 字

調査原因：史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業

調査期間：平成 23 年 6 月 1 日～12 月 13 日

調査主体：勝山市教育委員会

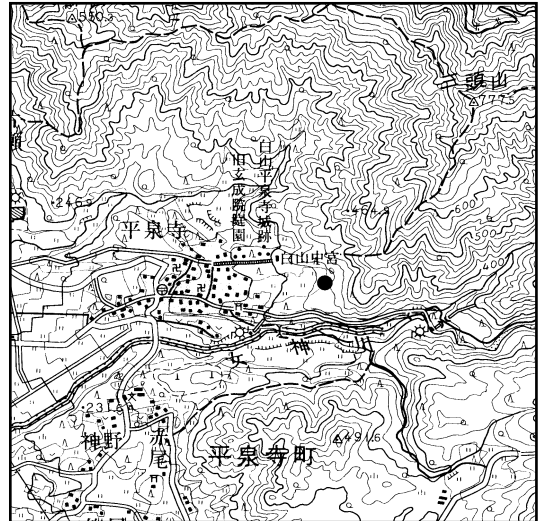
調査面積：約 560 m<sup>2</sup>

時代：鎌倉～江戸時代(13～19 世紀)

**調査の概要** 白山平泉寺旧境内は、白山信仰の越前側拠点となった寺院の遺跡です。調査地の僧坊区画3は、近年まで田畑になっていた区画で、近世以降に積まれた石垣や近年の耕地整理による高さ 2.5m ほどの法面がありました。この石垣と法面を平成 3・18・21・22 年度の調査で除去したところ、その奥から中世の石垣などが検出されました。ところが、みつかった石垣の一部は崩れており、十分な調査や見学ができない状態となっています。そこで、平成 24 年度に僧坊区画3で石垣の積み直し工事などの整備を行うため、23 年度は、事前に発掘調査を行うこととなりました。

**遺構** 室町時代の溝、戦国時代の石垣・石敷遺構・溝・石組井戸などが検出されました。

**遺物** 破片数で約 10,000 点がみついています。時代は鎌倉時代から戦国時代が中心です。



位置図(S=1/50,000)



石垣のすそから溝などが見つかりました。溝1は戦国時代、溝2は室町時代のものです。

種類は、土師質土器皿、瓦質土器火鉢・風炉、越前焼甕・壺・播鉢、瀬戸美濃焼碗・皿・壺・香炉、中国製陶磁器(青磁・白磁・青花の碗・皿・壺、褐釉の壺)、石製品(砥石・石臼・バンドコ)、木製品(黒漆鉢、ふた、シャモジなど)などです。(松村英之)



右写真の溝2から出土した木製品です。左はシャモジ、上は取っ手がついているふたです。